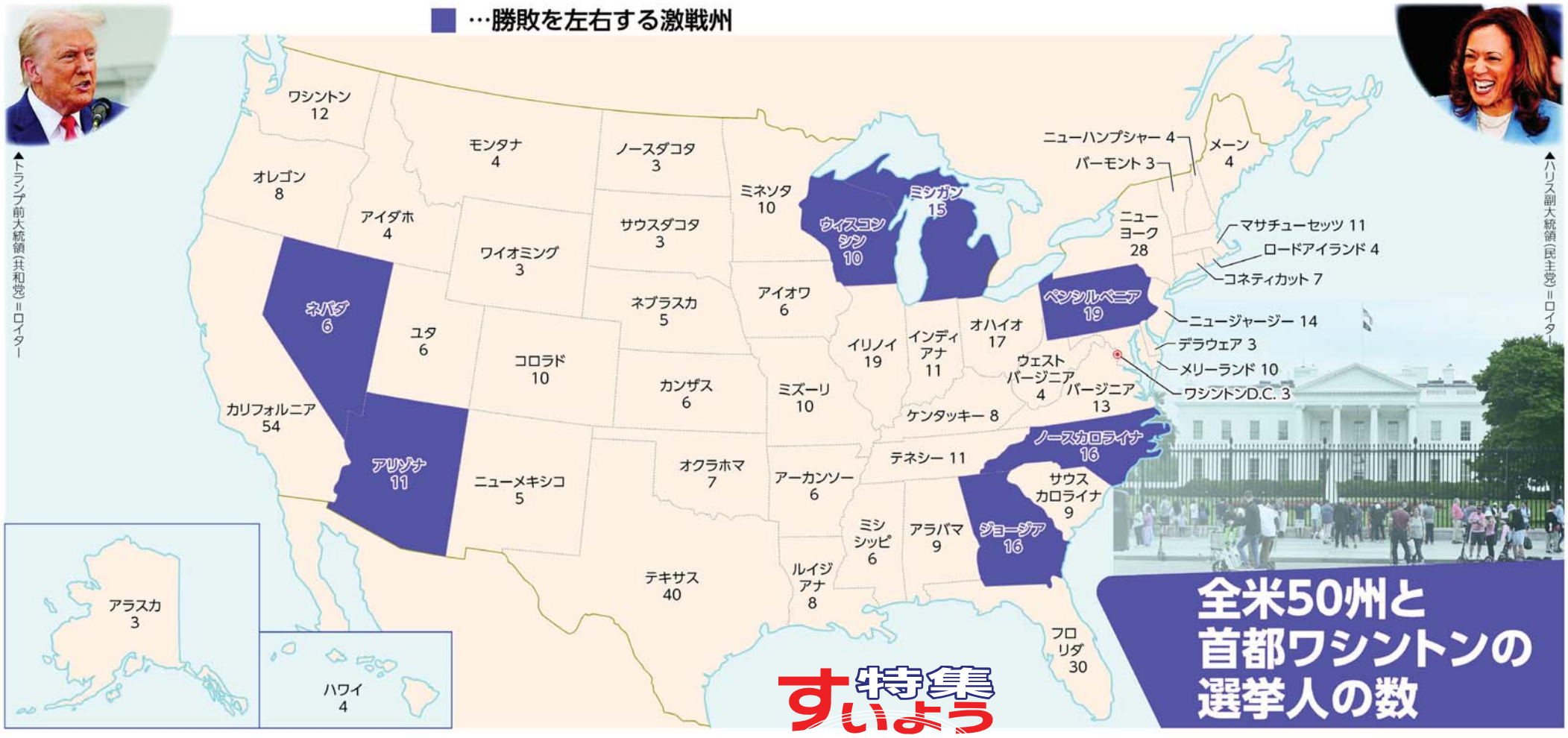

特集 すいよう

迫る米大統領選 11月5日

流れは？仕組みは？

11月5日に行われる米大統領選挙まで2カ月余りとなりました。民主党のハリス副大統領と共和党のトランプ前大統領の対決です。米大統領はどのような過程で選ばれるのか、選挙の流れと仕組み、問題点を探りました。（島田峰隆）

米大統領選挙は4年に1度行われます。本選挙は「11月の第1月曜日の次の火曜日」に行うと法律で決められています。この日には連邦議会の選挙なども行われます。

☆選ぶのは選挙人

こう決めた背景には▽秋の収穫が一段落した時期である▽キリスト教の安息日の日曜日には行わない▽広大な国土を移動する時間を考慮して休みの翌日の月曜日を避けた―などの考えがあったようです。（明石和康著『大統領でたどるアメリカの歴史』）

本選挙で一般有権者が選ぶのは「選挙人」と呼ばれる有権者の代表です。各州の選挙人は、首都ワシントンDCも含めて、州ごとに割り当てられています。合計で538人です（地図）。過半数の270人以上の選挙人を獲得した候補者が勝利します。

☆勝者総取り方式

ほとんどの州は、州全体で得票数が相手を1票でも上回った候補者がその州の選挙人を全員獲得する「勝者総取り方式」を採用しています。

たとえば選挙人19人の東部ペンシルベニア州で大接戦となり、得票差がほんのわずかであっても、競り勝った候補者が19人全員を獲得します。

このため〝全米での総得票数では相手候補を上回ったものの、選挙人の多い州で競り負けたため敗北した〟という逆転現象が起きることがあります。

最近の例は2016年の選挙です。一般有権者の総得票数では民主党のクリントン氏が相手候補のトランプ氏を上回ったものの、獲得選挙人数ではトランプ氏を下回ったため、トランプ氏が勝利しました。

民主、共和両党の支持が拮抗（きっこう）し、どちらに転ぶか分からないいくつかの州が勝敗の決め手になります。これらの州は「激戦州」と呼ばれ、両党ともテレビCMや遊説を集中させます。米メディアは、今回は七つの州が激戦州だと報じています（地図）。

☆改善求める声も

間接選挙方式がとられているのは、1787年制定の米国憲法で決めた規定を継承しているためです。

なぜこんな方式を採用したのか。米歴史家の故ハワード・ジン氏は、憲法起草者の間に「社会は上流階級が動かすべきだ」という思想があったからだと指摘しています。

ジン氏によると、憲法起草者の大半は富裕層で、女性、黒人奴隷、財産の少ない市民らは排除されました。憲法制定会議に参加したハミルトンは「大衆は…正しいことを決定したり、判断したりすることは不可能に近い」から、政治については「裕福で家柄の良い者たち」が決めるべきだと主張しました。（ハワード・ジン著『学校では教えてくれない本当のアメリカの歴史』）

しかし間接選挙方式を巡っては、▽死票が多く民意を正しく反映しない▽激戦州の動向が全体の結果を左右してしまう―などの理由から改善を求める声が出ています。

連邦議会調査局によると、議会には1800年以降、間接選挙方式の改革あるいは廃止を求める提案が700本以上出されてきました。2023年の世論調査では国民の65％が直接投票への改革を支持しています。

米大統領選の流れ

立候補希望者が出馬表明

共和党　民主党

それぞれの党が
- 各州で党員集会や予備選挙
- 夏の全国大会で候補者を指名

❶党内の手続き（1～8月）

候補者による討論会

共 候補者 VS 民 候補者

❷本選挙（11月）

一般有権者は州ごとに選挙人を選ぶ

A州　B州　C州　D州　……

選挙人（合計538人）

過半数の270人を獲得したら勝利！

各州の選挙人が州都で投票
結果は連邦議会の上院議長へ

❸選挙人投票（12月～翌年1月）

連邦議会の上下院合同会議で集計

勝者が正式に決定！

1月20日……

新大統領が就任！

NEW US President

気になるアレコレQ＆A

【Q】立候補資格は？

【A】憲法で①米国生まれ②35歳以上③米国に14年以上居住―の３条件を満たさねばならないと決められています。選挙権は18歳以上の米国籍の国民にありますが、事前に有権者登録が必要です。

【Q】任期は？

【A】1951年の憲法修正第22条で最大２期８年までとされました。ただそれ以前も任期は２期までという伝統がありました。初代大統領ワシントンが３選を請われたものの、一人の指導者が権力の座に長くとどまるのは良くないと考えて２期８年で退いたことに由来します。唯一の例外は、第32代大統領フランクリン・ルーズベルトで、第２次世界大戦のなか４選を果たしました。

【Q】第３党からの候補者は？

【A】故ジョン・Ｆ・ケネディ元大統領のおいのロバート・ケネディ・ジュニア氏が無所属で立候補を表明していましたが、23日に選挙戦から撤退しました。医師のジル・スタイン氏は緑の党から立候補を表明しています。二大政党を前提とした選挙制度のもとで第３党の候補者の勝利は絶望的ですが、民主、共和両党に不満を持つ有権者の受け皿となり、結果に影響を与える可能性もあります。

レイアウト　下渕雅史